

犬は吠えるもの!?



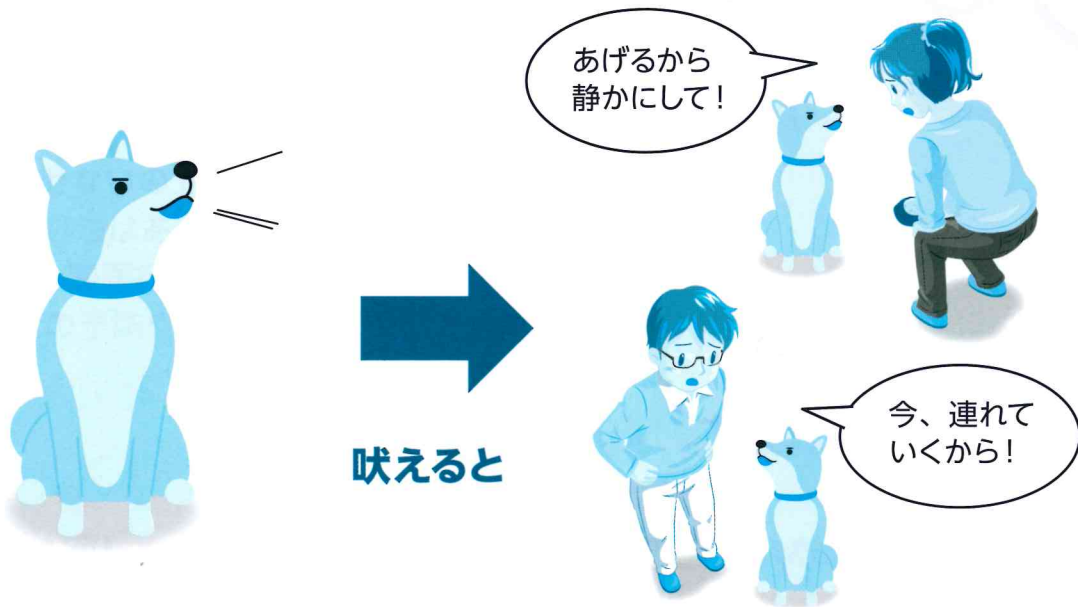
犬にとって吠えることは仲間とのコミュニケーションやなわばりや身を守るために必要不可欠な行動です。しかし、住宅密集度や吠え声の大きさ、吠える時間帯などによって近所迷惑になってしまう場合があります。

近隣の生活環境に配慮することも犬の飼い主として大切な仕事です。

よくある吠える原因と対処法

【1】吠える=うれしいことが起きる

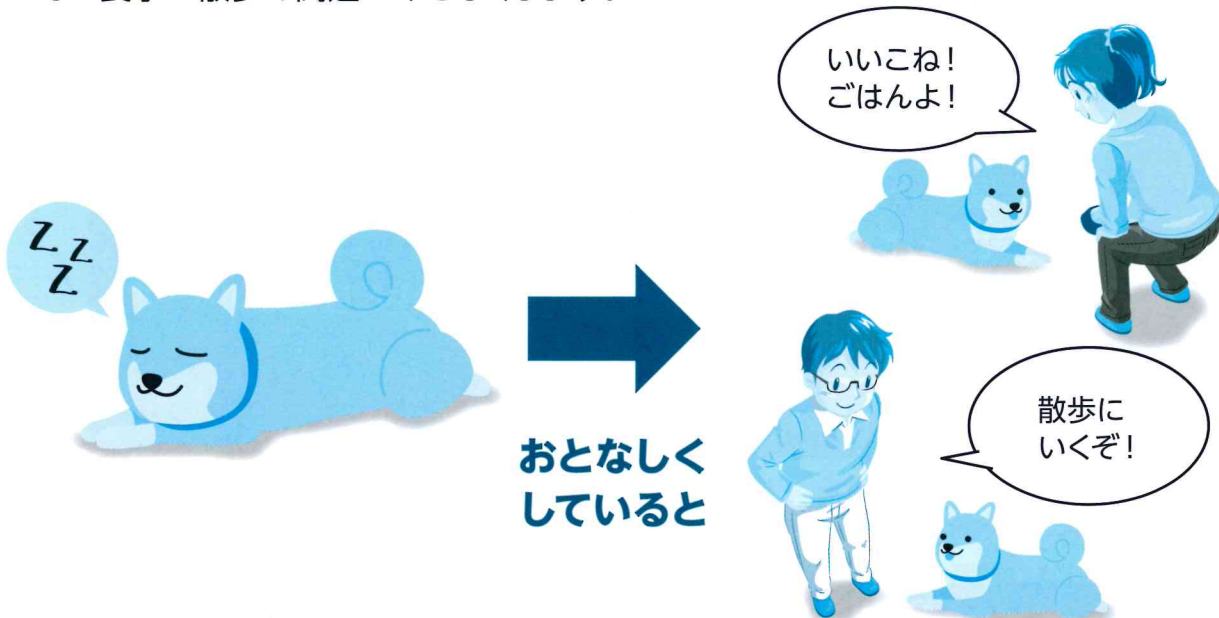
食事や散歩の時間が近づいてくると吠える犬は、吠える=食事がもらえる、吠える=散歩に連れていってもらえると覚えてしまっていることがほとんどです。



飼い主の気を引きつけることも犬にとっては「うれしいこと」になります。吠えている犬をなだめようと声をかえたり叱ったりすると「吠えると飼い主の気を引くことができた」と覚えてしまいます。

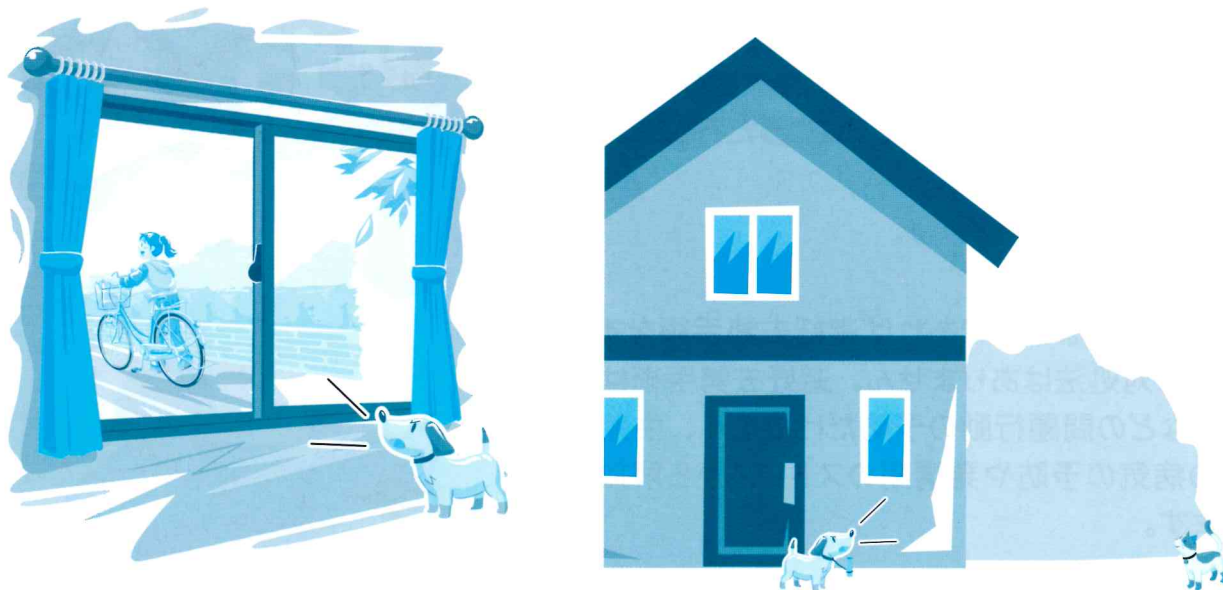
◇対処法◇

吠え止んだ後や吠え始まる前に食事を与えたり、散歩に連れていったりすることで吠える=食事・散歩の関連づけをなくします。



【2】吠える=嫌なことがなくなる

家の前を通る人や犬、猫などに向かって吠える犬は、自分のなわばりに近づいて来る嫌な存在を遠ざけようとしていることがあります。

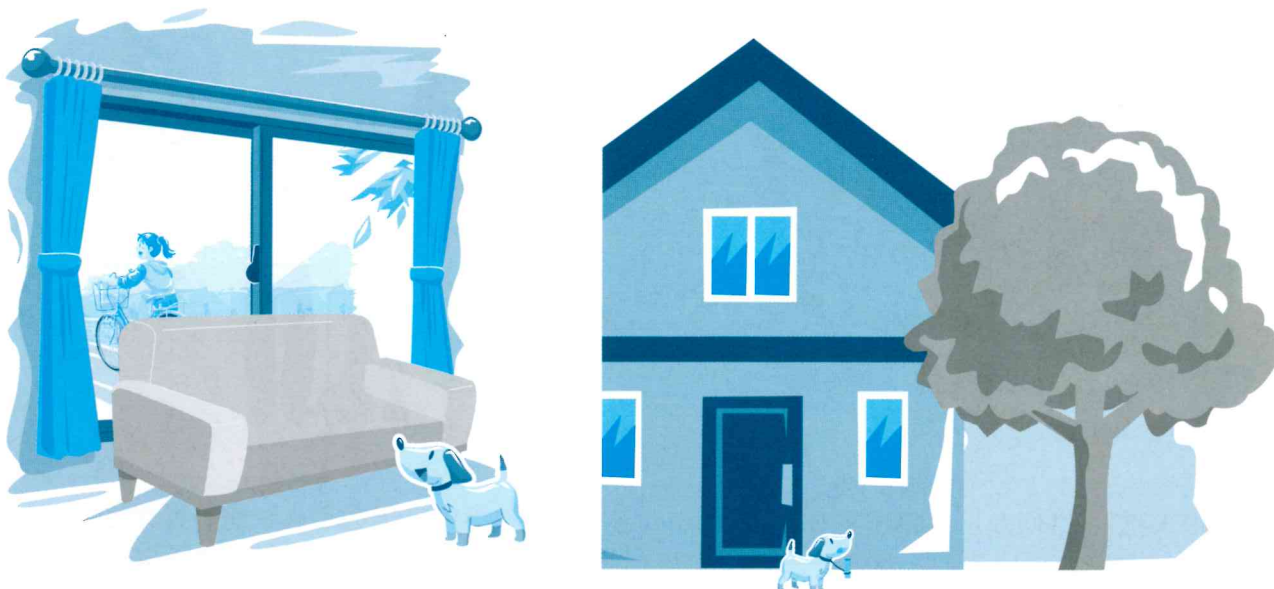


通行人や外にいる猫、散歩中の犬はいずれ通過していくため「吠えているとなわばりに近づく嫌な存在が消えていく」と覚えます。

◇対処法◇

近づいてくる人や犬・猫などに向かって吠えている場合は、吠える対象となるものを見えないようにすると吠えなくなることがあります。

外飼いの場合は吠えてもご近所が影響を受けにくい場所に飼養場所を替えてみることもひとつの方法です。



近づいてくる人や犬・猫などがなくなると必要以上に警戒することがなくなりリラックスして過ごせます。

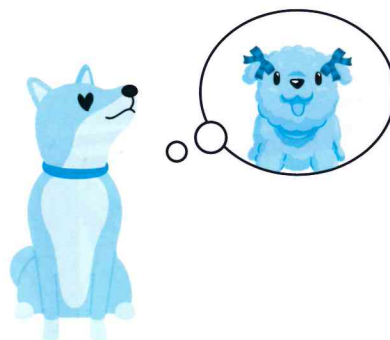
ほかに考えられる原因と対処法

【1】発情している

性的な欲求が満たされない犬は大きなストレスを抱えることになり、吠えるといった行動を起こすことがあります。

◇対処法◇

繁殖させないのであれば避妊去勢手術をする以外に対処法はありません。避妊去勢手術は吠えるなどの問題行動の予防だけでなく、生殖器系の病気の予防や発情期のストレスから解放されます。



【2】犬に適した運動や遊び・気分転換ができていない

犬種や年齢、大きさに適した運動や遊び・気分転換ができていないと持て余したエネルギーを発散させるために吠えることがあります。

◇対処法◇

それぞれの犬に適した運動や遊びや刺激的な散歩をすることで犬を疲れさせることができます。疲れた犬は吠えることも少なく、一日のほとんどを寝てすごします。



特に純血犬は何かしらの作業をさせるために作られていることが多く、作業欲求や運動欲求が高いと言えます。



散歩中に会う人や物の種類が多くなるほど犬に与える刺激も多くなります。また、犬は嗅覚を使うと脳が活性化されるため、いろいろな臭いを嗅がせることもいい刺激になります。